

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 経済学部

組織目標		達成状況(成果)		
教 育	(1)長期的目標:学士教育体制の戦略的再編 教育科目、カリキュラム及びコース科目の見直しを進め、平30年度での新教育体制の確立を目指して重複ポストの整理と時代に適合した科目の新設及び採用人事によって教育体系の現代化を図る。教育システム構想WG(平成21年度より各コースにコーディネーターを設置)が各コースの教育科目についての再検討と整備を進める。平成21年度は教員2名の転出によって弱体化した会計プロフェッションコースについて教育科目の再検討に基づいた採用人事を進めて教育体制を整備する。具体的には、平成21年度は管理会計担当教員を2名から1名に削減し、税務会計論を新設し、財務会計論担当の後任とともに実務家を採用する。なお、平成22年度には経営財務論担当者の後任を監査論に変更して採用することで、会計プロフェッションコースの教育体制が完成する予定である。 (2)大学院社会文化科学研究科におけるサイバー大学院コース構想の推進 比較経済講座を中心として経済学系が法学・文学系と協力して準備している社会人を対象としたサイバー大学院コース構想の具体化のための準備を進める。平成21年度は潜在的な需要発掘のために後期セメスターよりコース担当教員の大学院講義をeラーニング科目として一般公開(無料)する。平成21・22年度の講義公開によって市場調査を行い、平成23年度のコース立ち上げを目指す。	(1)学士教育体制の長期的再編計画を進めている。平成21年度には会計プロフェッションコース教育科目の再検討に基づいて管理会計担当教員を2名から1名に削減し、税務会計論を新設し、財務会計論担当の後任とともに実務家を採用した。また他のコースのカリキュラムについても教育システム構想WGによって検討してきたが、全学方針に従ってファカルティ・コーディネーターを選出し、全学と歩調を合わせて教育体系の見直しを進める体制を作った。 (2)大学院社会文化科学研究科におけるサイバー大学院コース構想は、法学計及び文学系の同意が得られず、放棄した。その結果、経済系としてはMBAコースのeラーニング講義、公開講座のインターネットを通じた公開を実施するにとどまった。		
	達成度: 4 ③ 2 1			
研 究	(1)日中韓共同研究体制の立ち上げ 中国の中央財経大学、上海社会科学院及び韓国江原大学との間の研究交流を前進させ、中国自動車産業に関する共同研究を立ち上げる。 (2)岡山経済研究所との共同研究を深化させ、産業界との連携を強化する 岡山経済研究所との間で地域経済の発展を目的とした共同研究を進め、研究面で地域に貢献すると共に、研究所スタッフの研究能力の向上に寄与する。 (3)国際的学部間協定の実質化 学部間協定を結んでいる中国の中央財経大学経済学院、韓国江原大学経営大学及びルーマニアのブカレスト大学経営管理学部との研究交流を実質化する。本年は中央財経大学およびブカレスト大学における国際シンポジウム・セミナーに経済学部スタッフを派遣し、研究報告をさせる。	(1)日中韓共同研究体制の立ち上げについては中国の中央財経大学及び韓国江原大学との間の研究交流を再建し、研究交流の実質化を図りつつある。ただし、中国自動車産業に関する共同研究は上海社会科学院側及び中央財経大学経済学院側の事情(共に部局長の変更による混乱で一時間関係が絶たれた)で進まず、江原大学経営大学研究者の組織する計画への参加のみが決定された。 (2)岡山経済研究所との共同研究は順調に進み、研究面で地域に貢献すると共に、研究所スタッフの研究能力の向上に寄与している。 (3)国際的学部間協定の実質化については、学部間協定を結んでいる中国の中央財経大学経済学院主催の国際シンポジウム、及びルーマニア・ブカレスト大学における国際シンポジウム・セミナーに経済学部スタッフを派遣し、研究報告をさせた。		
	中国及び韓国の大学の場合、部局長が変わるとスタッフも入れ替わり、関係継続が困難になることから、改めて関係構築の努力が必要であった。			
達成度: 4 ③ 2 1				
社 会 貢 献	(1)教育研究の社会への還元:教育研究活動の成果を社会人向けの公開講座、高校生向けの公開講座を通じて社会に還元する。 (2)国際貢献:中国の中央財経大学、山東大学、浙江大学、韓国の江原大学との研究交流及び江原大学との間の交換学生制度を通じて、研究者及び学生の3国間相互理解を深める。 (3)産学間連携:地域の問題に関して岡山経済研究所と共同研究を実施し、岡山経済の振興に寄与する。	(1)教育研究活動の成果を社会人向けの公開講座、高校生向けの公開講座を通じて社会に還元した。また公開講座はインターネットを通じて一般に公開した。 (2)中国の中央財経大学、山東大学、浙江大学、韓国の江原大学との研究交流及び江原大学との間の交換学生制度を通じて、研究者及び学生の3国間相互理解を深めるとともに、新たに江原大学側との学部教育の協力(講師の招聘)、中央財経大学側との推薦学生の相互受入について協議し、江原大学からは韓国経済論担当講師の派遣(夏期集中講義)についての承諾を得た。 (3)地域の問題に関して岡山経済研究所と共同研究を実施し、岡山経済の振興に寄与している。		
	達成度: ④ 3 2 1			
客 観 的 指 標	事 項	前 年	今年目標	達成状況
	学部入試倍率	3.35	前年度維持	3.2
	大学院充足率			
	科研費申請率	83.9%	80%以上	87.50%
	科研費採択率	35.0%(新規分)	40%以上	38.9%(新規分)
	共同研究件数	0%(2件)	0%(2件)	
	受託研究件数	0	0	
	留年・休学・退学者数	留年: 昼間45名(2005年度入学者23名)、夜間主13名(2005年度入学者13名)、第2部18名。休学: 昼間15名、夜間主3名、第2部7名。退学: 昼間14名、夜間主3名、第2部8名。	(今年の状況)	
就職率	昼間93.2%(進学4.6%) 夜間主93.7%	昼間90%以上 夜間主80%以上		
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。				

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)